

八幡浜港・港湾振興ビジョン

地域交流拠点施設の概要

平成23年10月24日現在

地域交流拠点施設の概要

コンテンツ

1	イントロダクション	P. 1
2	コンセプト	2
3	目的	3
4	対象エリア	4
5	整備する施設	
①	公営施設	5
②	民営施設	6
6	整備方針・登録制度	7
7	施設配置案	8
8	公営施設の概要	
①	海産物直売所	9～10
②	観光案内・まちづくり活動拠点施設	11～13
③	トイレ棟	14
9	民営施設の概要	
①	民営施設に対する考え方と措置	15
②	施設整備に関する事項	16～17
③	事業運営に関する事項	18～20
10	産業等への連動	21～23
11	市民の参画	24～25



物語を次世代へつなごう 新たな英知や情熱を筆先に込めて

権現山に登ると八幡浜の市街地が一望できます。まるでマッチ箱を敷き詰めたような街のたたずまいは、ほとんどの人には小さく映ることでしょう。しかし、見方を変えるとイメージが変わるかもしれません。「八幡浜の歴史は埋め立ての歴史」とよく言われますが、もとの陸地は八幡神社あたりまでで、新町商店街も市役所八幡浜庁舎が建っている場所も埋立地、つまりかつては海でした。正確な面積については諸説ありはっきりとは言えませんが、古くは江戸時代から、先達たちが年輪を重ねるがごとく幾度にもわたり市域を西へと広げてきたからこそ今の市街地があるのです。そのために費やした労苦、新たな土地を生み出すたびに土と一緒に注ぎ込まれた英知や情熱に思いをはせながら眺めると、さっきまで小さく映っていた市街地も印象が変わり広いと感じるのではないのでしょうか。

さて、市街地から目を右にやると、少し前とは面持ちを変えた八幡浜港が見えます。そうです、連綿と続いてきた埋め立ての歴史、その続編を紡ぐ舞台がついに完成したのです。今まさに「八幡浜物語～21世紀第1楽章～」執筆開始の時が到来しました。たくさんの夢がちりばめられたストーリーを描くことができるかどうか、その答えは、今の子どもたちが、いつか大人になって、権現山に登ったとき感じることです。私たちがこれからやるべきこと、それは新たな英知や情熱を筆先に込めていくことです。物語を次世代へとつないでいくために。



市民としっかり手を携え本事業を多彩に展開

八幡浜市には他の地域に引けを取らない強みが数多く存在します。全国的な知名度を誇るもの、最近認知されてきたもの、市民がその価値さえ気付いていないもの、さらには発掘すらされていないものもまだまだあるはずです。有形物、無形物、人材、情報、すべてを含めて、地域の強みは紛れもなく私たちにとってかけがえのない宝です。しかし、これらは市内の各所に散らばって存在し、一堂に会する場所がありませんでした。

このたび、四国の西の玄関である八幡浜港に、これまでにない規模の施設を整備するためのスペースを用意しました。市では、この機会、この場所に、市内に存在する宝を集め、経済効果を生み出し、市民の誇りや愛着を育む拠点を創出するとともに、宝がもたらす恩恵を広く還流させたいと考えています。そのためには、宝に磨きをかけ、付加価値を与え、さらに新しいものへと進化させる仕組み、仕掛けが必要です。市民としっかり手を携え、幾重にもコラボレートしながら、本事業を多彩に展開していきます。

ふるさとの「宝」輝く！

The Treasures of Our Hometown Shine Brightly



地域交流拠点施設の概要

目 的

ビジョン答申や市民の意見を踏まえ2点に集約

交流拠点施設整備の目的について、これまでの市内部における協議や港湾振興ビジョン整備実行委員会からの答申、様々な市民、関係者の意見を踏まえ、2点に集約する形で整理しました。

人が行き交う空間づくり

まずは市民にとって魅力あるものへ

●第1の目的は、大勢の人が行き交うことを通じて「経済効果を広く生み出すこと」です。そのためには、まず市民を最大の顧客と位置付け、購買力の市外流出に歯止めをかけ、需要を市内へ呼び戻すことが基本となります。たくさんの市民が集う施設づくりこそ経済効果を生み出す根幹であり、また市外からの来訪者増大、フェリー利用客の利用促進へと結びつく近道です。市では、市民に喜ばれる魅力ある施設づくりを目指しながら、交流人口の拡大、経済効果の助長、さらには様々な産業、行政分野の振興へとつなげていきます。



人が活躍できる舞台づくり

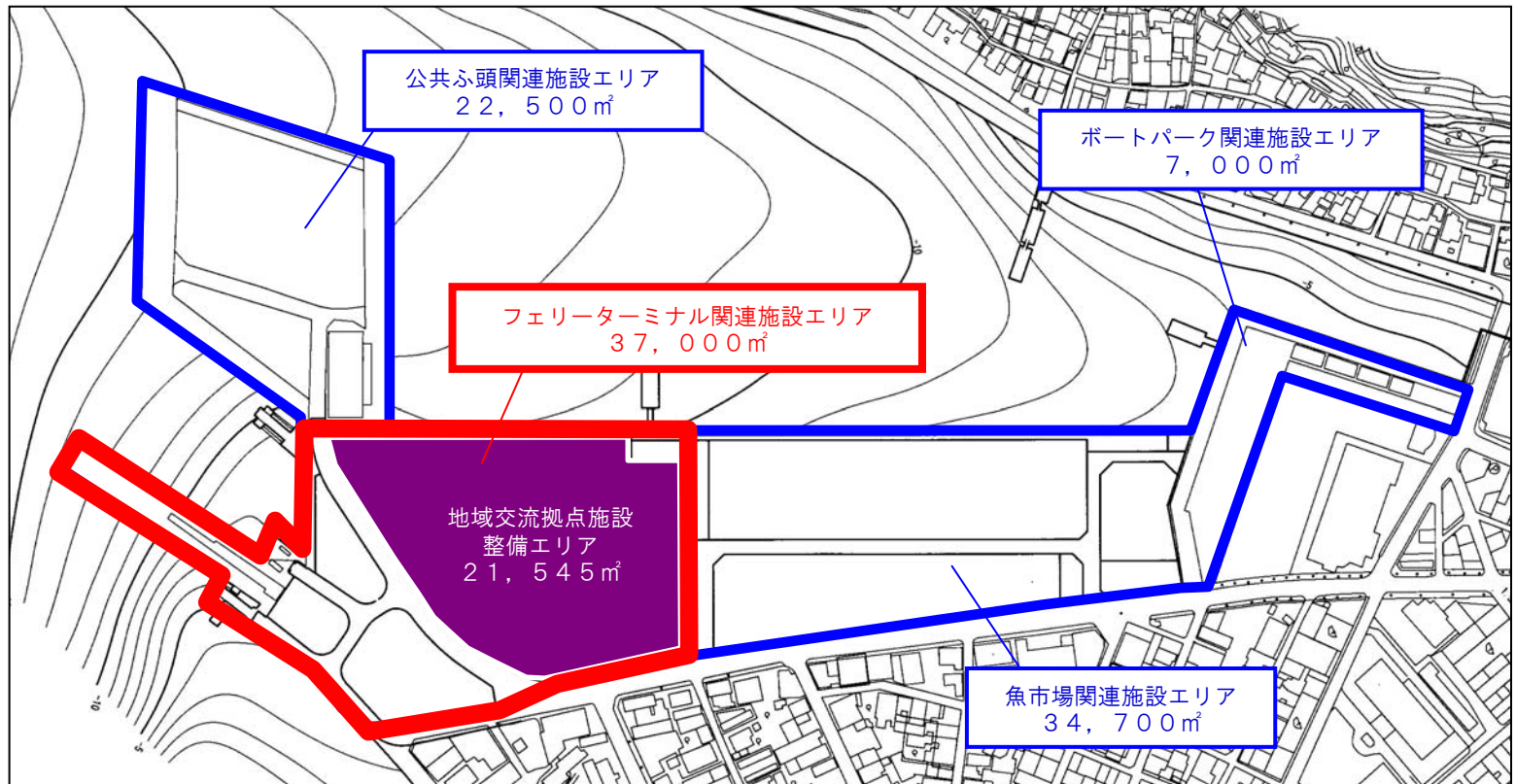
市民の誇りや愛着心を育むものへ

●第2の目的は、港での様々な取り組みを通じて「市民のふるさと八幡浜に対する誇りや愛着心を育むこと」です。そのためには、市民の声に耳を傾けることはもちろん、より多くの市民に主体的な関わりを持っていただくことが大切です。市では、市民としっかり手を携えながら、また市民同士の連携を促進しながら、市民が存分に活躍できる舞台づくり、市民のふるさとに対する誇りや愛着心の醸成に努めます。



地域交流拠点施設の概要

対象エリア



港湾振興ビジョン全体面積は 101,200 m² (うち今回埋立面積 46,000 m²) ですが、このうち地域交流拠点施設の整備対象エリアは 21,545 m² です。

地域交流拠点施設の概要

整備する施設

整備を予定している施設は下記のとおりです。公共性が高く収益性が低いものは市が整備運営を行い、逆に公共性が比較的低く収益が見込まれるものは民間事業者の経営ノウハウ、建設技術能力を生かすことができる民営方式を取り入れます。ただし、海産物直売所については収益性も見込めますが、これまでのどーや市場の運営実績、地元水産業界の一翼を担う仲買業者の意向を踏まえ、現在のどーや市場方式（市が整備し、仲買人組合仲卸部会等がテナント出店）を踏襲することが望ましいと判断しました。

なお、民営施設を除いた交流拠点施設の整備事業費は、駐車場整備や各種案内サイン設置など周辺整備や付帯工事を含めて現時点では約6～7億円を見込んでいますが、実施段階において市の実質負担額の軽減を十分念頭に置きながら精査していきます。

公営施設

平成25年4月オープン予定 ※緑地公園は整備完了済み

1 海産物直売所（どーや市場） ➡ P. 9～10参照

出島にある「どーや市場」を移転整備します。威勢の良い店舗がズラリと並び、新鮮な海の幸を浜値で買うことができるとともに、今まで以上に一般消費者に目が向けられた商品陳列、サービス展開も行われる予定です。



2 観光案内・まちづくり活動拠点施設 ➡ P. 11～13参照

まずは市の観光やイベント情報を広く発信する機能を持たせます。加えて、まちづくり団体やボランティア団体が気軽に集い、ミーティングや作品発表、体験活動の場として活用できる市民に開かれた施設づくりを目指します。

3 トイレ棟 ➡ P. 14参照

トイレは集客を左右する大事な要素です。誰もが使いやすく清潔であることを第一に、加えて、洗練された要素、親和性といったプラスイメージをあわせ持つトイレを整備したいと考えています。

4 緑地公園

各種施設の整備に先行して、緑地公園を整備しました。面積は7,440㎡で、市民憩いの場所として、また、にぎわい創出を補完する空間として活用していきます。具体的には、多様な用途に供する芝生広場を中央に配し、そのほかボードウォーク、東屋、芝生の駐車場などを備えています。また、一角を市民参画ゾーンと位置づけ、去年は「かまぼこカーテン」を制作、今年は「みかんの丘」の整備に取り組んでいます。



地域交流拠点施設の概要

整備する施設

民営施設

平成25年4月オープン予定 ※公営施設と同時

1 飲食施設 ➡ P. 19参照

地域の素材を生かした体にやさしいメニューがズラリ。まさに選ぶ楽しさを演出するレストラン&カフェができる予定です。地元主婦もシェフとしておもてなしします。

2 産直・物産販売施設 ➡ P. 20参照

八幡浜の魅力を生かしたこだわり産直品に地元生活者に密着した6次産業産品を加えたハイブリッド型の品揃えとなる予定です。カルチャー教室などのエンターテインメント性やライブ感あふれる空間も「売り」の一つです。



民営施設の整備運営者はコンペで決定しました

◆ 募集期間／平成22年9月27日～平成23年1月31日

◆ 募集対象（提案を求めた内容）

- 1 民営施設の整備計画（民営施設のデザインや基本図面の提示等、整備計画に関する提案）
- 2 民営施設の事業運営計画（民営施設の事業内容や運営方法等、事業運営計画に関する提案）
- 3 公営施設の整備計画概要（民営施設と調和する公営施設の外観デザインに関する提案）

◆ 応募件数／3件

◆ 市の方針／平成23年3月15日公表

提案審査において最も評価の高かった㈱ステップコミュニケーション案に眞田井良子 建築・まち育て研究所案の優れた部分を取り入れる方向で協議を進め、市は、再提案いただいた内容を平成23年6月20日に了承しました。（最終提案の概要P. 16～20）

地域交流拠点施設の概要

整備方針・登録制度

整備方針

全体としての調和と機能に応じた存在感を演出

八幡浜港は市の顔と言えるべき場所です。市では、自然との調和や地域の歴史、文化に配慮し、八幡浜らしい景観を形成していくための基本方針やガイドラインを定めた「八幡浜市景観計画」に基づき、地域交流拠点施設の整備を進めていきます。

基調としては、民営施設コンペ採用案に示された開放感ある景観イメージを参考とし、どこか「なつかしさ」や「温かみ」を醸す木の良さを取り入れながら全体の統一感、調和を図るとともに、一方で各施設の機能に応じた存在感も演出したいと考えています。

また、利用者の利便性に対する配慮に加え、圧迫感を与えず落ち着きある景観を生み出すために、当エリア内の施設はすべて平屋建てとする予定です。



- 関連項目 トイレ棟デザイン設計競技P. 14
コンペ提案に示されたエリアイメージP. 16～17

国の登録制度

多様な媒体を通じたPR効果に期待

現在、八幡浜港は、観光センタービルなどを中心施設として、国土交通省の「みなとオアシス」に登録されています。今回新しく整備する当該施設やその他施設の事業運営開始にあわせて、施設登録の変更を行うとともに、同じく国土交通省が所管する「道の駅」へも登録する予定です。これらの登録を行うことにより、多様な媒体に情報を掲載することができるメリットがあり、また、ツイッターやフェイスブックなどインターネットツールを通じた口コミによるPR効果、テレビや新聞等マスメディアに紹介される機会が増えることも期待できます。

みなとオアシスの主な構成要件

海・港に関する情報発信施設、地域交流スペース、トイレ、駐車場、交通結節機能、その他付加サービス

道の駅の主な構成要件

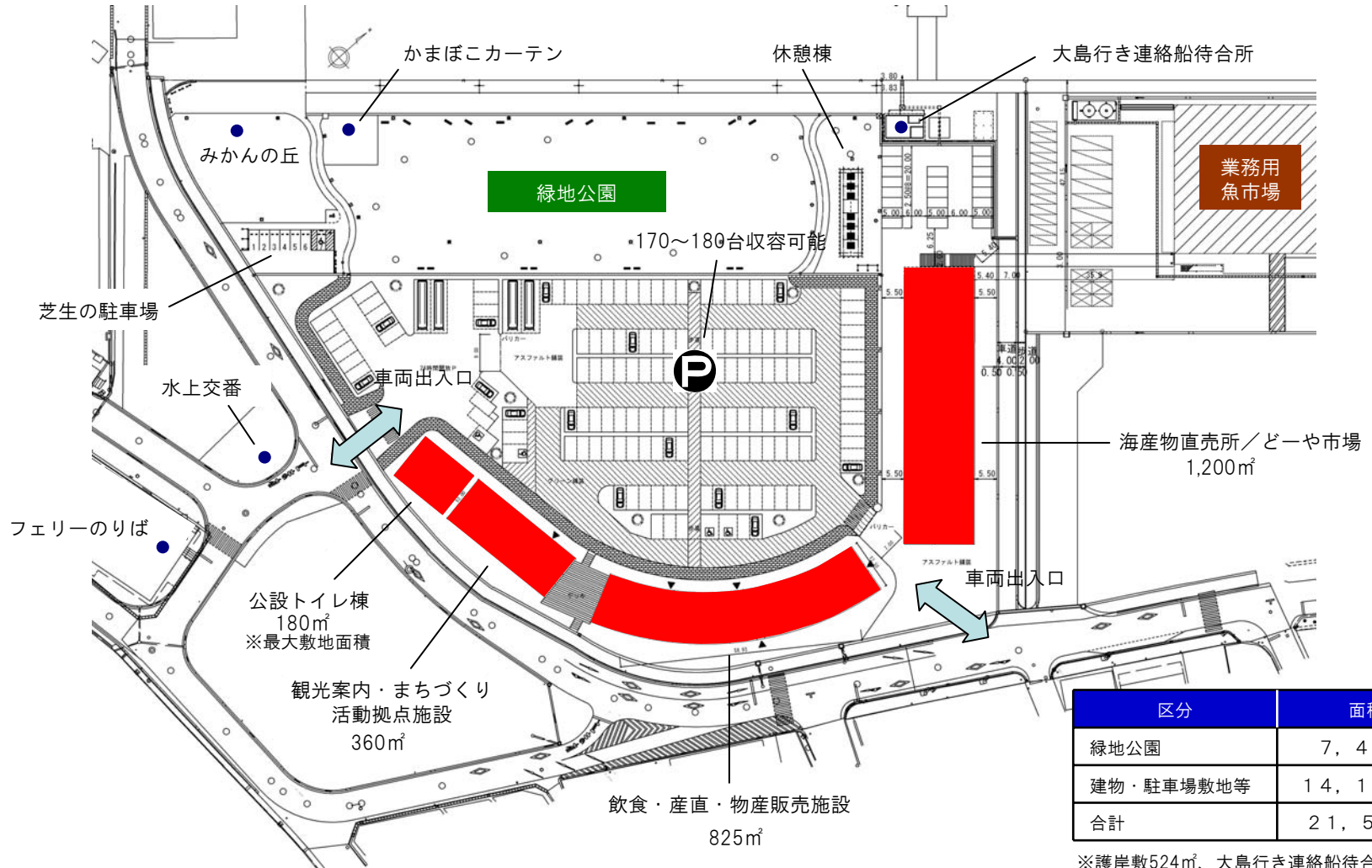
駐車場（概ね20台以上／24h利用可）、トイレ（概ね10基以上／24h利用可）、公衆電話（1基以上／24h利用可）、情報発信・観光案内施設、その他付加サービス



地域交流拠点施設の概要

施設配置案

※今後、計画を具体化していく中で、建物の形状や規模は変更となる場合があります。



区分	面積
緑地公園	7, 4 4 0㎡
建物・駐車場敷地等	14, 1 0 5㎡
合計	21, 5 4 5㎡

※護岸敷524㎡、大島行き連絡船待合所および通路面積1,273㎡は含んでいません。

●海産物直売所（どーや市場）

基本的な方向性

目玉施設として位置づけ

海産物直売施設（どーや市場）を出島から移転リニューアルします。日々の台所として市民や近隣地域を含めた飲食業者をメイン顧客にする一方、かつての海鮮朝市での集客実績、観光バスツアーの乗り入れ実績から、市外客へも十分アピールできる目玉施設として位置づけます。

安全安心の消費者ニーズへ対応

食の安全安心に対する消費者ニーズは近年非常に高まっています。各店舗において品質管理を徹底することはもちろん、紫外線殺菌海水の利用など、新しくできる高度衛生管理型魚市場と連動した取り組みを実施しながら、新鮮かつ安全安心な魚を浜値で提供していきます。

魅力ある新たなサービス展開を

より魅力的な施設にするためには、鮮魚販売に加えて新たなサービス展開が不可欠です。特に、買った魚を捌いてもらって持ち帰れるサービスやその場でおいしく食べられるサービスはニーズが高く、これらについて、同じエリア内に整備する飲食施設との連携も含めて検討していきます。



施設オープン

施設オープンは平成25年4月の予定です。今年度の実施設設計、来年度に工事を行います。

●海産物直売所（どーや市場）／つづき

施設規模

- 構造／未定（木造の方向で検討中）
- 階数／平屋建て
- 建設面積／約1200㎡（予定）
- 出店者／15～20店（協議中）

課題

営業時間に関する課題克服に努めます。

現在のどーや市場は、午前中だけの営業、土曜日が定休日です。これは仲買人の業務形態、東京や大阪などの中央卸売市場の定休日に連動しているもので、抜本的な変更は難しいのが現実です。しかしながら、午後や土曜日の営業は、集客にとって非常に大事なことです。出店者同士あるいは民営施設との連携を視野に入れながら消費者ニーズに応え得る対応策について検討したいと考えています。



地域交流拠点施設の概要

公営施設の概要

●観光案内・まちづくり活動拠点施設

基本的な方向性

観光案内機能の充実 ～多様なツールで情報発信～

- 主たる目的の一つは観光案内機能を充実させることです。窓口対応やパンフレット配布といった従来型の方法による情報提供はもちろんのこと、多様化するインターネットツールを用いるなど、様々な手段を用いて市の観光やイベントなど地域情報を積極的に発信していきます。
- 市が直接関与するもの以外についても、住民にとって有益な情報、事業であれば広く取り扱うことを基本に、タイムリーかつきめ細かな情報提供に努めます。
- 八幡浜港は四国の西の玄関です。市内のみならず近隣市町、愛媛県や四国全体の観光情報も広く取り上げていきます。



まちづくり活動拠点の創設 ～市民活躍の舞台づくり～

- もう一つの目的は市民のまちづくり活動の拠点づくりです。たくさんの市民が集い、語り、存分に活躍できる舞台として機能させ、港エリアの賑わい創出を図ります。
- 市と各種まちづくり団体、あるいは団体同士の連携深化に努めるとともに、様々な体験活動をコンテンツ化する取り組みなどを通じて、市域全体へ来訪者が流れる仕組みを構築したいと考えています。



施設オープン

施設オープンは平成25年4月の予定です。今年度を実施設計、来年度に工事を行います。

地域交流拠点施設の概要

公営施設の概要

●観光案内・まちづくり活動拠点施設／つづき

主な業務内容

観光・イベント情報の収集および発信

市には現状、単一で大きな集客力を持つ観光名所はありません。しかし森林浴の森日本100選に選ばれた諏訪崎、アンティークな赤壁や擬似洋風建築が並ぶ川之石の町並みや伊予の大阪のたたずまいを残す浜之町の町並み、涼とともに流しそうめんを楽しむことができる平家谷など、魅力がありかつ潜在力を秘めた観光スポット、さらには真穴の座敷雛、五反田の柱祭りといった独特の伝統行事、国内最大級のマウンテンバイク大会、日土東地区のグリーンツーリズム、木造モダニズム建築として注目を浴びる日土小学校の校舎など、近年の観光ニーズに照らしても市外客へ十分アピールできる観光資源が多数あります。市では、これらの観光アイテム、イベントをうまくパッケージ化したり物語性を持たせるなど、今までとは違った手法も織り交ぜながら、またホームページ、フリーペーパー、デジタルサイネージ、CATVなど、多様なツールを用いて積極的にPRしていきたいと考えています。

イベントの実施および誘致

海産物直売所、民営施設、各種団体と連携しながら賑わいに資するイベントを折々に実施、誘致します。その中で、当施設の役割としては、団体同士をつなぐマネジメント機能、コーディネート機能を発揮することが大事だと考えています。また、各種団体が継続的に取り組んでいるイベントや体験活動をコンテンツ化したり参加者の取り次ぎを行うなど、より能動的な関わりを通じて連携の深化、イベントの活発化に努めます。

まちづくり団体等への施設貸与

会議スペース、多目的スペースをまちづくり団体、ボランティア団体など幅広く市民等へ貸し出します。夜間の利用も可能とし、利用料も安く抑える予定です。ミーティング、趣味の作品展示、発表会、体験教室の場、団体ツアー客の食事の場、その他多目的に利用できます。

地域資料の常設展示

市民の地域学習の場、まちづくり活動の刺激の場として機能させ、ひいては市民のふるさとの誇りや愛着心を醸成していくため、八幡浜ならではの各種資料を展示します。特に、遠足の場としての利用を想定し、未来の八幡浜を担う子どもたちにたくさん来訪してもらえる施設づくりに努めます。



地域交流拠点施設の概要

公営施設の概要

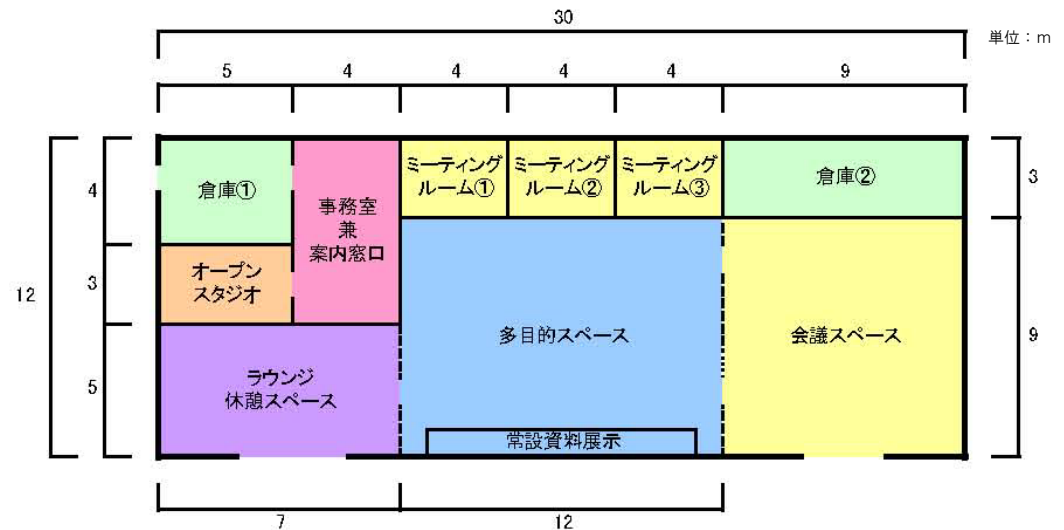
●観光案内・まちづくり活動拠点施設／つづき

規模概要

- 構造・階数／木造平屋建て
- 建設面積／約360㎡（予定）
- 内容／多目的スペース、会議スペース、ラウンジ、オープnstudioほか
- 外観、内観ともに木造の良さと開放感を演出するとともに、可動式の壁を採用することによって、利用の用途や規模等に応じてフレキシブルに仕切りを変えることができる構造とします。

用途	寸法	面積
ラウンジ	9*5	45
多目的スペース	12*9	108
会議スペース	9*9	81
ミーティングルーム①	4*3	12
ミーティングルーム②	4*3	12
ミーティングルーム③	4*3	12
事務室・案内窓口	4*7	28
オープnstudio	5*3	15
倉庫①	5*4	20
倉庫②	9*3	27
合計		360

※現時点での規模・配置案であり、今後、様々な意見を聞き、必要に応じて見直します。



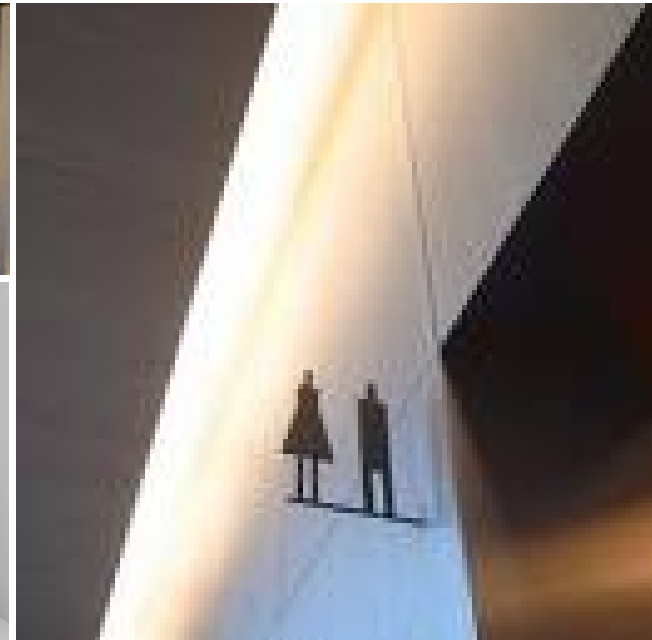
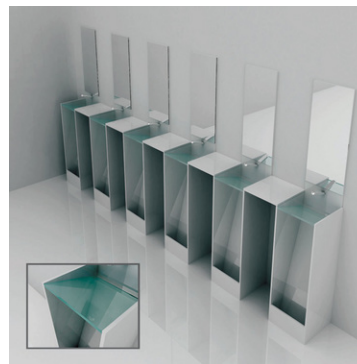
● トイレ棟

設計競技

清潔、洗練、親和性をあわせ持つトイレ実現へ向けて

トイレは集客を左右する大切な要素の一つです。市では、「誰もが使いやすく、清潔であること」を第一に、加えて「洗練」された要素や「親和性」といったプラスイメージを持ちあわせ、それでいてエリア全体の景観にマッチするトイレを作りたいと考えています。このような来訪目的の一つになり得るトイレの実現を目指すため、全国公募によるデザイン設計競技を実施します。規模や構造についても、当設計競技の提案を踏まえ決定する予定です。

- 平成23年度 / デザイン設計競技
- 平成24年度 / 実施設計・工事



●民営施設に対する市の考え方と措置

公的役割の担保

収益性を尊重する一方、公的役割担保のため基本協定を締結

- 民営施設で実施されるのは飲食、産直、物産販売といった収益事業であり、一定の利益を生み出さなければ事業を安定的に継続したり、新たな事業展開を図ることはできません。市としてもその点を尊重すべきですが、一方で、公的役割も果たしていただかなければならないと考えています。そのためには、本事業の目的として掲げている地域産業の振興や行政分野の推進につながる運営、さらには公平公正の原則をより意識した運営を行っていただくことが必要です。
- より具体的に言えば、「多くの市民が納品者、参加者となる仕組みづくりを行うこと」「地産地消の推進に配慮すること」「市民参画により開発した加工品などを販売すること」「市民の雇用促進に努めること」「多くの方が利用しやすい料金設定とすること」などです。
- 提案いただいている内容は、上記項目を具備しており、そういう意味では提案自体によって公益性が担保されているわけですが、さらに加えて、市では事業運営者（新会社設立予定）との間で基本協定を締結し、提案を遵守する旨や義務的事項を明記するなど、公的役割を踏まえた事業運営を行っていただこうと考えています。



地域交流拠点施設の概要

民営施設の概要

●施設整備に関する事項

施設コンセプト

人・モノ・情報がより良い形で出会うことが可能となる交流の場の形成

- 既存の道の駅の機能を踏まえた上で、さらに「交流拠点」としての機能を加えます。
- 八幡浜市のブランド振興の旗印となる拠点施設を目指します。
- 八幡浜市民や道の駅の利用者が参加しやすい商業施設づくりに努めます。

デザインテーマ

つなぐ

- 海・山・空と YAWATAHAMA をつなぐみんなの広場アゴラ。
- まちの新しい拠点（シンボル）として、経済効果の波及とともに愛着と誇りを育む場としてみんなの心をつなぐ。

※ アゴラ (Agora) は古代ギリシャの都市国家にあったシンプルで自由な空間、行政・文化・流通などあらゆる市民生活における交流の要だった場所で、この「アゴラ」を現代風に再現しようというのがテーマです。

デザインコンセプト

八幡浜 Grocal Modern

- 八幡浜の自然（山、海、空）やマテリアル（青石、からみレンガ、格子、羽目板、左官壁）、歴史を意識し、それを世界に通用する形で現代的に表現します。
- 自然や街のDNAを取りこむことで八幡浜らしい、優しい心地よい空間を創ります。



地域交流拠点施設の概要

民営施設の概要

●施設整備に関する事項／つづき

施設規模

飲食施設 約100坪(約330㎡) / 産直・物産販売施設 約150坪(約495㎡) / 合計 約250坪(約825㎡) (予定)

エリア全体のイメージ

●「箱づくり」ではなく「場の創造」／施設自体の特色訴求とともに心地よい環境を提供し、時間消費型のふと立ち寄りたくなるような全体の場創りを行うため、テーマパーク型の配置とします。

●みかん山テラスの整備／観光案内・まちづくり活動拠点施設から産直・物販施設に連なるゾーンにおいて、開放感と立体感を演出する「みかん山テラス」を整備し、各種市民団体のイベントの場、遊歩道スペース、オープンテラスなど多目的に活用します。

(注) 施設の詳細は、公設部分、民設部分問わず実施設計を経て決定するため、施設の形状などは実施段階で変更となる可能性があります。なお、当イメージ図では飲食施設、産直・物販施設を別棟としていますが、部門間連携等を踏まえて複合施設案(同一建物内配置案)も検討されています。



地域交流拠点施設の概要

民営施設の概要

● 事業運営に関する事項

事業運営会社

株式会社「アゴラ」(仮称・新規設立予定)

- 事業運営開始 / 平成23年4月(予定)
- 年間売上目標および入り込み客数の目標 / オープン5年後 売上げ7億円、入り込み客77万人(ネット販売・大都市圏における販売分含む)

事業運営コンセプト

ゆるくつながる 人と人がつながればコミュニティが生まれ、人とモノがつながれば商いが生まれ、モノとモノがつながれば新しい商品が生まれる

顧客

メインのお客さまは八幡浜市民、近郊のキッズファミリー、シニア、アラフォー(40歳前後の女性)、今後のお客さまは近郊のヤングカップル、観光客、ビジネス客と位置付けています。

特徴

- ① エンタテインメント
- ② 地産地商
- ③ 市民参加型



地域交流拠点施設の概要

民営施設の概要

●事業運営に関する事項／つづき

飲食部門

- 規模／100坪（330㎡）（予定）
- 運営方式／直営
- スタイル／選ぶ楽しさを演出するレストランとします。具体的には、フードコートスタイル、カフェテリアスタイル、ピュッフェバイキングスタイルなどについて検討しています。
- 主なメニュー／地元主婦もシェフとして活躍いただきながら、まごわやさしい食材（※）や極力オーガニックか減農薬の食材を使いながら郷土料理や家庭料理などを提供します。

※まごわやさしい食材とは、健康や美容に配慮し栄養バランスを取るための食材の例え。「ま」…豆類・豆腐、「ご」…ゴマ・ナッツ、「わ」…ワカメなど海藻類、「や」…野菜、「さ」…魚、「し」…しいたけなどキノコ類、「い」…いも類

- 営業時間／8時～21時 ※営業時間は、顧客要望により変更することがあります。
- 特長／八幡浜産の食材がちゃんと見える飲食エリアを目指します。

- ◎「食する・おしゃべりする・ゆったりする」場を提供します。
- ◎カルチャー教室なども行い、地域文化を継承、創造します。
E X：冠婚葬祭やお祭りなど特別な時だけ食する郷土料理を四季に合わせて作ります。また調理法も伝授します。
- ◎地元主婦との連携による地域密着型運営も取り入れます。



●事業運営に関する事項／つづき

産直・物産販売部門

- 規模／150坪（495㎡）／売場面積 約396㎡ バックヤード・事務所等 約99㎡（予定）
- 運営方法（システム）／POSシステムを導入した一括レジ方式（新会社による売上金の一元管理）とします。なお、アゴラ出品者協議会が定めた出荷認定委員全員に承認された方のみ出品者協議会の指示に従い、産直・6次産品を出品できることとし、出品者承認の基準は、出品者とアゴラ出品者協議会との信頼関係に主眼を置きます。
- 営業時間／8時～18時 ※ 営業時間は、顧客要望により変更することがあります。
- 特長
 - ① ハイブリッド型の品揃え／八幡浜の魅力を生かしたこだわり産直品（果物、野菜、漬物など）を取り揃えます。また、地元生活者に密着した6次産業化商品（加工品、雑貨、スイーツ類、パン、ピザ、浜弁、関連ある他エリア商品など）の開発・販売に努めます。
 - ② 地産地消はもちろん地産地商／商圏の拡大：大都市圏のデパート、アンテナショップ、セレクトショップおよびネット販売なども積極的に展開します。
 - ③ ライブ感ある店舗／特に産直エリアは地域密着型、ロカール色豊かな雰囲気とします。また、旬で新鮮な材料、ホスピタリティのある人材でおもてなしします。
 必要条件＝食材がよい（安心・安全、旬、新鮮）
 十分条件＝売場演出の強化（特徴をわかりやすく説明したPOP、木箱にはロゴマークを焼きつけ統一感を図る etc.）
 - ④ ブランドの確立／八幡浜ブランド「made in YAWATAHAMA」として認知した商品を積極的に販売します。
- プレオープン
 - ① マーケティングリサーチ、商品開発推進、人材育成等のため仮店舗にて平成23年中にプレオープンする予定です。
 - ② プレオープンと並行してホームページを開設し、インターネットを通じて商品紹介。来春には販売も実施する予定です。



地域交流拠点施設の概要

産業等への連動

交流拠点施設の整備運営を通じて、様々な地域産業、行政分野の発展につなげていくことも大きなテーマです。市ではフィージビリティ（実現の可能性）を探る作業も含めて、当面次のような検討、取り組みを行いたいと考えています。

水産業



●新しく整備する業務用魚市場では、様々な形で高度衛生管理施策を実施します。海産物直売所においても、海水殺菌や店舗の衛生管理の徹底など、業務用魚市場に連動した取り組みを行うことにより、八幡浜の魚のブランド力アップを図る予定です。なお、将来的には、生産段階も含めたトレーサビリティの仕組みやエコラベル制度の導入などについても検討したいと考えています。



●水揚げされながら廃棄処分される地魚、離島振興事業として取り組んでいる大島アワビなどについて、加工品開発の研究を進めるとともに、地域交流拠点施設での食材利用、大消費地へ向けた新たな販路開拓、学校給食との連携の可能性を検討しながら、地域水産業の新たな展開へとつなげたいと考えています。

●魚の捌き方教室や魚料理のオリジナルレシピ制作などを行うなど、住民に身近な取り組みを通じて魚食普及に努めたいと考えています。

農業



●産直施設のオープンを見据え、市の立場としても野菜栽培の奨励策（技術指導制度の確立、休耕地利用対策など）に努め、農業振興の形に新しいバリエーションを加えたいと考えています。



●産直施設での柑橘販売を通じて、二級果や加工品回しになる果実の価格引き上げを図るなど、民営施設の事業運営者に、農業所得の向上、農家のモチベーション向上につながる取り組みを行っていただくよう働きかけていきたいと考えています。

●市民の農産加工品づくりに対する意欲に応え、新たな名物加工品の誕生を支援するため、農産加工施設の整備について、関係機関と検討を進めていきたいと考えています。

●市民ボランティアとの協働で緑地公園内に整備するみかんの丘などを活用した体験活動を通じて、一般の方に農業に対する理解を深めてもらえる取り組みを行いたいと考えています。

地域交流拠点施設の概要

産業等への連動

商業

●交流拠点施設と商店街を結ぶ交通体系の整備、町並み散策ツアーの定期実施など、港への来訪者を旧八幡浜、旧保内それぞれの商店街エリアへ誘導する取り組みについて検討を行います。特に、八日市、旬彩市、保内ふれあい市、よろずマーケットなど、定着している商業イベントとコラボレーションすることは有効と考えています。

●物産販売施設で市内の商品を広く取り扱うことはもちろん、民営施設運営者の協力を得ながら、商品開発の促進をはじめ商業全体の底上げにつながるような仕掛けができるよう努めていきたいと考えています。



観光

●市外から大勢の人を呼び込むためには、まず第一に交流拠点施設そのものを魅力ある集客スポットにしなければなりません。多彩なサービスやイベントを展開するとともに、憩いの場所として相応しい空間を創出し、観光振興、交流人口の増加につなげたいと考えています。

●観光を事業として成り立たせるためには、宿泊を伴う来訪者を増やす必要があります。近年の観光におけるキーワードは食と体験、そして多様性です。市には、みかん、魚、じゃこ天、ちゃんぽんといった食の目玉が豊富にあり、また川之石や浜之町の町並み散策、日土東地区のグリーンツーリズム、新しい魚市場のセリ見学など、工夫次第で魅力を増す可能性を秘めた観光資源がたくさんあります。今回の観光案内・まちづくり活動拠点の整備を契機として、種々のアイテムの組み合わせや物語性の付与に意を用いながら、旅行関係機関や近隣市町と連携を図り、ニーズをしっかりと捉えた観光施策を推進していきたいと考えています。

地域交流拠点施設の概要

産業等への連動

教育



- 交流拠点施設内に展示するまちづくりや地域の偉人に関する資料は、地域学習を通して、ふるさとの誇りや愛着を育むための教材として活用したいと考えています。緑地公園を含め遠足の場としても位置付ける予定です。
- 野菜栽培や加工品開発が促進されれば、学校給食の食材納入について本格検討が可能になります。実現すれば、学校側にとっては「地産地消」の実践的教育ができる一方、納品者側にとっても、安定納入先の確保ができるというメリットが生まれます。双方の利益につながるため、関係機関の連携を図り実現に努めたいと考えています。
- 民営施設運営者の意向を踏まえる必要がありますが、施設で日常的に使用する小物や消耗品の製作やデザインモチーフの立案について、学校や美術サークルなどと連携して取り組むことを検討したいと考えています。自分たちの手掛けたものがお客さんに実際に使われることで、おもてなしの心、港に対する愛着心を育む一助になるとともに話題づくりにもなります。

環境



- 市内にはふるさとの豊かな自然を守るための実践的活動を熱心に行っている団体がいくつかあります。市ではこうした団体と連携しながら、港を基点にしたエコツーリズム、クリーンツーリズム（※造語）などの実施について検討したいと考えています。地域の自然に配慮した港景観が生まれれば、交流拠点施設整備エリアを舞台に、自然を大切にするための啓蒙活動、自然とふれあう体験活動などを展開することも可能となります。

福祉

- 地域交流拠点施設の整備運営を通じて身障者の雇用の場が創設できないか民営施設運営者と連携のもと検討したいと考えています。
- 産直施設の品揃え充実のための野菜づくり奨励策は、お年寄りのいきがい創出にもつながるため、市の立場でも積極的に取り組みたいと考えています。

地域交流拠点施設の概要

市民の参画

交流拠点施設の整備によってまちが元気にならなければ本事業は成功とは言えません。まちが元気になること、それはすなわち市民が元気になることです。今回、施設の中に市民の活動拠点をつくる予定にしていますが、もちろんそれだけでは「元気」は生まれません。この場所を舞台にどんなストーリーを展開していくかが大事なことです。市では市民とともにしっかりと手を携えながら元気あふれるまちづくりを進めていきます。

商品開発

●**農産加工品研究**／産直施設の完成を見据えて、八幡浜の農産品を使った名物づくりに意欲的な団体が増えはじめています。ほとんどは自らの利潤追求のためでなく、ふるさとを元気にしたいという思いを持って活動している団体です。市ではこうした思いに応えるため農産加工施設の整備について検討を進めるなど、新たな農産加工品づくりを支援していきたいと考えています。

●**水産加工品研究**／昨年、県の音頭によって、行政や水産業界関係者だけでなく各界各層の多数の市民参加のもと、地魚を利用した加工品について研究する取り組みがはじまりました。すでに製品化されたものも出るなど成果が顕れており、市においても、水産加工施設の整備にあわせてこの流れに歩調をあわせ、さらに促進していきたいと考えています。

●**メニュー研究等**／昨年、市民が主体となって取り組んだ港弁開発や子どもの発想に基づく商品開発が大きな話題を呼びました。今年も、保内地域において、町並み散策と新たな食開発を組み合わせた企画が進行しています。市ではこうした実践的な取り組みを歓迎するとともに支援していきたいと考えています。



体験活動

●**旅プラン策定**／八幡浜を満喫してもらう周遊ツアー企画について市民ボランティア中心に検討いただいています。これまで実施したことのある単発的な取り組みをコンテンツ化することが目的です。コンテンツ化によって恒常的な市民の活躍の場が確保できるとともに、地域コンシェルジュ（案内人）のさらなる育成にもつながると考えています。

●**体験活動立案**／ユニークな視点で観光情報やマイスター情報を綴った「八幡浜いとなみ観光地図」（商工会議所青年部策定）など、体験活動や周遊ツアーの企画立案にあたってヒントをくれる市民オリジナルの資料が、これまでいろいろな団体によってつくられています。言わば「宝地図」であるこれらの資料を生かすことはもちろん、制作団体と連携しながら実効性ある面白いプランを練り上げたいと考えています。

地域交流拠点施設の概要

市民の参画

緑地活用

●かまぼこ板アート／昨夏、緑地公園の一角にかまぼこ板を使った実用的アート作品が完成しました。名付けて「かまぼこカーテン」。これは、提案者である日本大学の学生と市民が協働で実現させたもので、マスコミにも大きく取り上げられるなど市のPRに一役買っていました。

●みかんの丘／今年は、かまぼこカーテン横に青石の石積みによる「みかんの丘」整備に取り組んでいます。市では、市内の高校をはじめ市民ボランティアと連携しながら、八幡浜を象徴する景観を港に表現するとともに、農作業体験、加工品づくり体験、販売体験など多彩に活用したいと考えています。

●ライトアップ／冬になると市内各所がクリスマス色の光に彩られますが、緑地公園においても市民有志を募り、イルミネーションの飾り付けを行うなどライトアップ企画を実施したいと考えています。海や港ならではのユニークなテーマで表現することにより、来訪者の呼び込みにつながるるとともに、婚活アイテムとして活用することもできます。



本資料に記載しているもののほか、いろいろな案が考えられます。特に、地域産業の発展へ連動する取り組み、市民の元気づくりにつながる取り組みについて、積極的に展開したいと考えています。